江府町立 小・中学校
コミュニティ・スクールだより
江府町コミュニティ・スクール推進委員会
第３号
平成２９年１１月１０日
江府町教育委員会事務局

「地域とともにある学校づくり」に向けて
先進地　視察研修
～京都市教育委員会・京都大原学院～

江府町教育委員会と江府町コミュニティ・スクール（以下、CS）推進委員会が合同で、CS の先進地京都市へ視察研修に出かけました。

京都市の取組について熱心に質問し、江府町に生かせる部分をたくさん吸収しました＝京都市教委生涯学習部

京都市では…

１日目の午後は、京都市教育委員会の CS 担当部署を訪問しました。

京都市では、平成１６年度から「学校運営協議会」の設置を推進してきており、現在では小学校１６４校すべてが CS に指定され、中学校も７４％が指定。今後さらに指定校が増えていく見込みで、小中合同の CS を設置する中学校区も増えています。

なぜ京都が…

明治の初めに、首都が東京にうつったことから、京都の人口は３分の２まで減少し、都市衰退の危機に瀕したそうです。そこで京都の人々は、

- **まちづくりは人づくりから**
- **子どもをしっかり育めば未来は明るい**

と考え、明治維新の頃から「地域住民自らの手による学校づくり」を行い、地域が教育の担い手となってきた歴史があります。

竈金（かまどきん）の精神

京都には、「番組（ばんぐみ）」と呼ばれる町衆の自治組織があり、その番組ごとに、竈（かまど）のある家が、子どもがいる・いないに関わらず竈の数に応じてお金を出し合い、学校づくりを行ってきたそうです（「番組小学校」といいます）。そうした風土が、現在の CS にもつながっているようです。

京都大原学院の取組
（京都市立大原小学校・大原中学校）

京都大原学院は、京都市の中心部から北東に１５ｋｍ、周りを山に囲まれた小さな盆地状の土地にある**小中一貫校**で、全校児童・生徒数６５名という江府町よりも小さな規模の学校です。

小中一貫校とは…

小学校と中学校の教育課程を調整し、９年間の一貫性を持たせた体系的な学校制度のことを**小中一貫教育**といい、これを行っている学校を**小中一貫校**といいます。過疎地などでは小学校と中学校で校舎・敷地を共用する小中併設校（小中併置校）が存在します。このような学校では行事などを小・中学校合同で実施することもあります。

校区には、三千院や寂光院など古くからの社寺があり、特産の赤シソを使ったしば漬けが有名です。

京都大原学院　学校運営協議会

１日目の夜には、学校運営協議会理事会の会議の様子を見学しました。

学校運営協議会理事会では、学校の様子が伝えられ、また理事さん方による熱い議論が交わされていました＝京都大原学院

京都大原学院の学校運営協議会は、江府町でいうところの「学校地域協働本部（学校お助け隊）」、「放課後子ども教室」のコーディネート機能も担っておられます。

学校運営協議会

理　事　会

保護者・地域代表
有識者・公募委員　など

企画推進委員会（部会）

- 学校評価部会
- 学校支援部会
- 学校安全部会
- 伝統体験部会
- 図書館活用部会
- 放課後学び教室部会

この日の会議の中では、「学童クラブ・放課後学び教室の子ども達の利用希望状況から人件費が不足するが、どうするか。」ということについて、担当の方から補助金の運用状況を踏まえた提案がありました。

「地域の子どもを地域で育てる」ために何ができるのか、何が必要なのかを、学校と地域が額をつき合わせ、一体となって考えておられる様子が印象的でした。

０歳から１５歳まで

２日目には、地域とつながるさまざまな取組についてのお話を伺いました。

大原地区では、大原小学校から市内の私立中学校への進学率が高まり、大原中学校の存続が危ぶまれる状況が生まれてきました。近隣の中学校との統合の話も出てきたとのこと。

そこで、地域住民で検討を重ね、地域に学校を残すべく、小学校と中学校が隣接しているメリットを生かして、小中一貫 CS を立ち上げる道を選ばれたそうです。（それまでは、隣接はしていたものの、小・中はフェンスで仕切られ、交流はほとんどなかったとの裏話もうかがいました。）

現在では、大原小学校から大原中学校への進学率は100%だそうで、子どもも大人も地域の学校に誇りを持ち、また学校は地域を支える基盤となっています。

校舎内の様子も見学させていただきました＝京都大原学院

校内には、空き教室を利用した子育て支援センターと小規模保育施設「小野山わらんべ」も開設されて、０歳から 15 歳までの学び舎に。小・中学生が赤ちゃんや幼児の様子を見たりふれあったり、また、小学生が中学生の姿を見て将来をイメージしたり…そこにはさまざまなメリットがあり、それを活かす取り組みが地域の力を借りて進めてられています。

【小中一貫教育】
- 小１からの英語教育
- 小学校５・６年生は週１回部活動
- 卒業式は中３のみ

【地域とのつながり】
- 地域の特産「しば漬け」についての学習
- 中３「地域活性化の提言」（小中地域学習の総まとめ）
- 地域のお寺等の施設を利用した４泊５日の宿泊研修

児童・生徒数は少ないながらも、いろいろな人とふれあう経験のおかげで、子ども達同士の人間関係も良好とのこと。

また、この学校を巣立った卒業生からは、「外に出てもやっていける」・「ちゃんとしゃべれる」という自信にあふれた声も聞かれるそうで、学校で学んだこと、経験し身につけたことが、その後の生活にも生かされているようです。

ふるさとに根差し、ふるさとを想う子ども達が育っていく…まさに「地域とともにある学校」のあるべき姿がそこにはありました。

校長先生の「学力面も伸びています」という言葉にもちょっと惹かれるものが。